

事例10-5

取組名	移動支援サービスの提供		
町会名	おおのがわく 大野川区町会（安曇地区）	町会 データ	・人口／571人 ・世帯数／320世帯 ・高齢化率／47.8% ・町会加入数／224世帯 ・常会数／3 ・隣組数／16
取組概要	○町会が所有する車両を利用して、地元住民が移動困難者を送迎するもの		

背景・課題

- ・大野川区町会は、乗鞍に位置し、市街地まで遠距離にある。
- ・公共交通は、アルピコ交通が運行する観光路線バスのみであり、運行本数・時間帯が限られている。
- ・町会には、高校生が数名居住しており、高校へ通学するためには、上高地線の新島々駅に行く必要があるが、始業に間に合う時間帯の運行はない。また、透析など週に数回受診しなければならない患者がおり、市立病院等への通院要望がある。いわゆる交通空白地帯に該当する。

経過・取組内容

- ・町会は、移動が困難な住民を救済するため、ボランティアによる送迎支援を行っている。送迎車両の購入とリースにより、車両2台を確保し、送迎は、主に町会長・民生委員等が行っている。乗鞍地域外の送迎（新島々駅・市立病院等）は、利用者に片道100円の送迎費用を求めている。
- ・取組内容は、遠方に通う高校生を新島々駅までの朝早い時間帯を担当する人、透析患者等の通院の送迎を担当する人、町会内の送迎を担う人に分け、交代で運行している。その他、眼科医、銀行（ATM）、大野川診療所への送迎、ゴミ出し支援なども行っている。

なお、ゴミ出しについては、事前連絡が必要となっている。

成果・今後の展望等

- ・移動が困難な住民が希望の時間帯に移動ができる環境が整った。
- ・医療関係の送迎では、病院での待ち時間が長時間に及ぶ場合があり、送迎者の負担が大きいことが課題となっている。地域の高齢化に伴い医療送迎の需要が増している。
- ・高齢ドライバーが引退したいとの声があることから、新たなドライバーを募集する必要がある。
- ・市の補助金を活用した、送迎に係る経費の確保を検討する必要がある。
- ・中山間地の移動支援の在り方を検討するとともに、交通部の交通空白地有償運送事業補助金を活用した送迎体制の構築を目指す。



【ポイント】

- ▼ 移動困難者のニーズに合わせた送迎環境の構築